

やまびこ 特別号 359号



新年に寄せて

脱皮したい 巳年の目標

図書館・郷土資料館長 五十嵐恭子

新しい年が始まりました。清々しい気持ちで本のページをめくっている方もいらっしゃると思います。皆様の「初読書」はどんな本だったでしょうか。今年も図書館で皆様が「新たな一冊」と出会えますよう、ご来館をお待ちしています。

さて、昨年は何かと注目されることが多かった「鶴岡市立図書館」。新たな図書館のあり方を考える懇話会や図書館ミーティングの開催、web でのアンケートやミーティングの電子版「デジタルプラットフォーム」の立ち上げなど、盛りだくさんの令和6年でした。

「よい図書館とは」「図書館で何をしたいか」「郷土資料の活用」といったテーマで市民の皆様のご意見やアイデアをお聞きした中で、当館の情報発信がもっと必要なことを実感しました。今年は図書館でこんなこともやっているよ、こんなこともできるよ、といった情報を積極的に発信していきたいです。脱皮して一回り大きくなるように、今まで以上に皆様のお役にたてる図書館になれるよう職員一同「皮」を突き破ってみたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



=図書館にある「巳年（蛇）」関連本=

【一般書】

- 『十二支（えと）の動物たちの生き方事典』加藤 迪男(2012)
- 『蛇 不死と再生の民俗』谷川 健一(2012)
- 『日本へビ類大全』田原 義太慶(2024)
- 『へビ品種図鑑』中井 穂希(2024)
- 『蛇にピアス』金原 ひとみ(2024)
- 『十二支ふしぎばなし』福井 栄一(2024)
- 『先生、大蛇が図書館をうろついています！鳥取環境大学の森の人間動物行動学』小林 朋道(2020)

【児童書】

- 『うまれたよ！へビ』関 慎太郎(2021)
- 『十二支えほん』谷山 彩子(2020)
- 『十二支がくえん』かんべ あやこ(2024)
- 『十二支のお雑煮』川端 誠(2020)
- 『シン・動物ガチンコ対決 毒牙一撃ガラガラへビvs強敵百発へビクワイシ』ジェリー・パロット(2023)

=今月の誕生鳥=

フクロウ

夜行性で小動物などを狩る肉食の鳥。全身がとても柔らかい羽で覆われており、飛ぶときに大きな音がしないため、獲物に気付かれないように近付くことができる。

～フクロウの絵本～

- ・『とりこしふくろう』滑川まい／作
- ・『夜をまもる騎士アウル』クリストファー・デニス／作



1月の新着図書



リクエスト・予約開始は 1月17日(金) です

◎小説・エッセイ

- ひとり旅日和〔6〕(秋川 滝美)
- ミスター・チームリーダー (石田 夏穂)
- 死写会 (五十嵐 貴久)
- イクサガミ 人 (今村 翔吾)
- マンダラチャー ト(垣谷 美雨)
- 邪鬼の泪 (神永 学)
- 書楼弔堂 霜夜 (京極 夏彦)
- 逃亡犯とゆびきり (櫛木 理宇)
- 秋葉断層 (佐々木 譲)
- 孤城春たり (澤田 瞳子)
- 竈稲荷の猫 (佐伯 泰英)
- 牧谿の猿 (西條 奈加)
- バイト・クラブ (小路 幸也)
- 花咲小路二丁目中通りのアンパイア(小路 幸也)
- 冬と瓦礫 (砂原 浩太郎)
- サーペントの凱旋(知念 実希人)
- 皇后は闘うことにした(林真理子)
- まるで渡り鳥のように (藤井 太洋)
- また団地のふたり(藤野 千夜)
- 鎌倉幽世八景 (藤沢 周)
- 暗黒戦鬼グランダイヴァー (菅田 哲也)
- ドヴォルザークに染まるころ (町田 そのこ)
- カメオ (松永 K三蔵)
- ゆびさきに魔法 (三浦 しをん)
- 張良 (宮城谷 昌光)
- 暗号の子 (宮内 悠介)
- 大人の流儀 12 (伊集院 静)
- 60代、不安はあるけど、今が好き(岸本 葉子)
- とるに足りない細部 (アダニーヤ・シブリー)

◎実用書

- 死とは何か (中村 圭志)
- 戊辰戦争 (ピーター・ニコルス)
- 狂人たちの世界一周 (益田 ミリ)
- 言いたいことが言えないひとの政治学(岡田 憲治)
- 大統領から読むアメリカ史 (簗原 俊洋)
- 知っているようで知らない 物価のしくみ(斎藤 太郎)
- 老いを読む老いを書く(酒井順子)
- 教員不足 (佐久間 亜紀)
- 日本ファッションの一九〇年 (平芳 裕子)
- 日本動物民俗誌 (中村 禎里)
- 教えて！クラゲのほんとと (鶴岡市立加茂水族館)
- 誰にも言えない汗の悩み (藤後 悦子)
- 姿勢のゆがみ図鑑 (柴 雅仁)
- 海底トンネルの造り方(下石 誠)
- 農家が教える酒つくり (農文協)
- おしゃれな通園・通学アイテム (朝日新聞出版)
- めんの本 (有元 葉子)
- つなぎごはん (新谷 友里江)
- たべるノット。 (松重 豊)
- 地力アップ大事典 (農文協)
- 図解よくわかる実践！ スマート農業(三輪 泰史)
- 超わかりやすいつるちゃんの果樹のせん定完全攻略(鶴 竣之祐)
- ホラー映画の科学 (ニーナ・ネセス)
- 信じ切る力 (栗山 英樹)

◎児童書

- 人口減少社会 2(岩澤 美帆)
 - あおいほしのあいうみ (シンク・ジ・アース)
 - モンシロチョウ、「ねむるさなぎ」のひみつ(橋本 健一)
 - すごすぎる色の図鑑 (ingectar-e)
 - まいどばかばかしいお笑いを！ (赤羽 じゅんこ)
 - ソフトテニス入門 (川端 優紀)
 - 山の学校キツネの としよいいん(葦原 かも)
 - ワルイコいねが (安東 みきえ)
 - カフェ・スノードーム(石井 睦美)
 - ぐうたら魔女ホーライまた来た！ (柏葉 幸子)
 - おばあちゃんのあかね色 (楠 章子)
 - 晴れ、ときどき雪(小手鞠 るい)
 - ふゆのおばけずかん(斉藤 洋)
 - あそび室の日曜日(村上 しいこ)
 - 雪娘のアリアナ (ソフィー・アンダーソン)
- ### ◎絵本
- ごはんだよ！だんごむし (石橋 真樹子)
 - くさぶえあそび (井上 大成)
 - ワンワンバウワウ (乾 栄里子)
 - おめんです4 (いしかわ こうじ)
 - ゆきのこえ(おーなり 由子)
 - あくたれラルフますます あくたれる(ジャック・ガントス)
 - おばけずし (荻田 澄子)
 - 十二支がくえん(かんべ あやこ)
 - きょうりゅうたんけんたい (アレックス・ラティマー)
 - こいぬのがっこう (きたむら さとし)
 - ノラネコぐんだんピザをやく (工藤 ノリコ)
 - ねこのケーキやさん(KORIRI)

やまびこ号の次回巡回日は

月 日です

新着図書は上記以外にもありますので、お気軽にお声がけください。新刊は、ホームページでもご覧いただけます。

<http://lib.city.tsuruoka.yamagata.jp/>



竹内主馬の初出仕

今回は、昨年4月に掲載した「嘉永年間の竹内主馬」と題した一文の続きとなる。前回、「いよいよ主馬の江戸出府を紹介したい」という文言で締めていたのだが、その前に主馬が記した「公務日誌」の存在に気付いたので、まずはそこから紹介してみたい。

さて、主馬の最初の役職は弘化4年(1847)9月に任じられた番頭であるが、それ以降にも、慶応元年(1865)閏5月まで、18年に亘り、32冊の日誌を記している。なお、それ以外にも主馬は元治元年(1864)9月から江戸市中取締のため出府するが、この公務日誌とは別に「御進発御用登日記」2冊を記している。なお、この「御進発～」はあまりにも達筆すぎて読みにくい。同時期の公務日誌の方は、それ以前とは変わらない筆致であることから、日誌の上でも公私の別があったように思われる。

では、実際に日誌の内容を見てみよう。初出仕は弘化4年9月10日であり、主馬に対し、致道館へ来るよう呼出があった。以下、その様子を現代語訳してみると以下の通りとなる。

9月10日9時半頃、親類の竹内弥次右衛門殿と一緒に致道館に出掛ける(概略図を描いた)。

①講堂の左側の畳縁から三間目の畳に東側を後ろにして座る。刀は後ろに置く。手を打ち、給仕を呼んでタバコ盆を頼む。家老衆が出仕の際、講堂でお辞儀をしている間は会釈するようだ。10時頃、月番の組頭である松平武右衛門殿が出仕した際、弥次右衛門が武右衛門殿に近づき、「竹内主馬、お呼び出しにつき、参上しました」と挨拶する。それからしばらくして、武右衛門殿から呼出があり、弥次右衛門と共に②畳縁から講堂の北側板戸を回って③西側の畳縁を通り、④南側の畳縁に座るよう指示される。ここまでは弥次右衛門が一緒だったが、この先は武右衛門殿と一緒に⑤家老衆の詰所に向かう。⑥詰所の入口には屏風が2枚あり、そこで扇子を取り、家老衆詰所の敷居の外に座って待つ。すると、家老の杉山弓之助殿より「中に入りなさい」と声を掛けられ、部屋に入る。そこで武右衛門殿から家老衆に「これなる者は竹内主馬でございます」と紹介される。その後、弓之助殿より「先般、竹内家嫡男の権之進が17歳未満で病死しましたので、本来ならば跡式が打ち絶えるものでございますが、特別の思召により、竹内主馬が竹内家を相続するものとします。なお、形式上、権之進は主馬の嫡子であることにします。

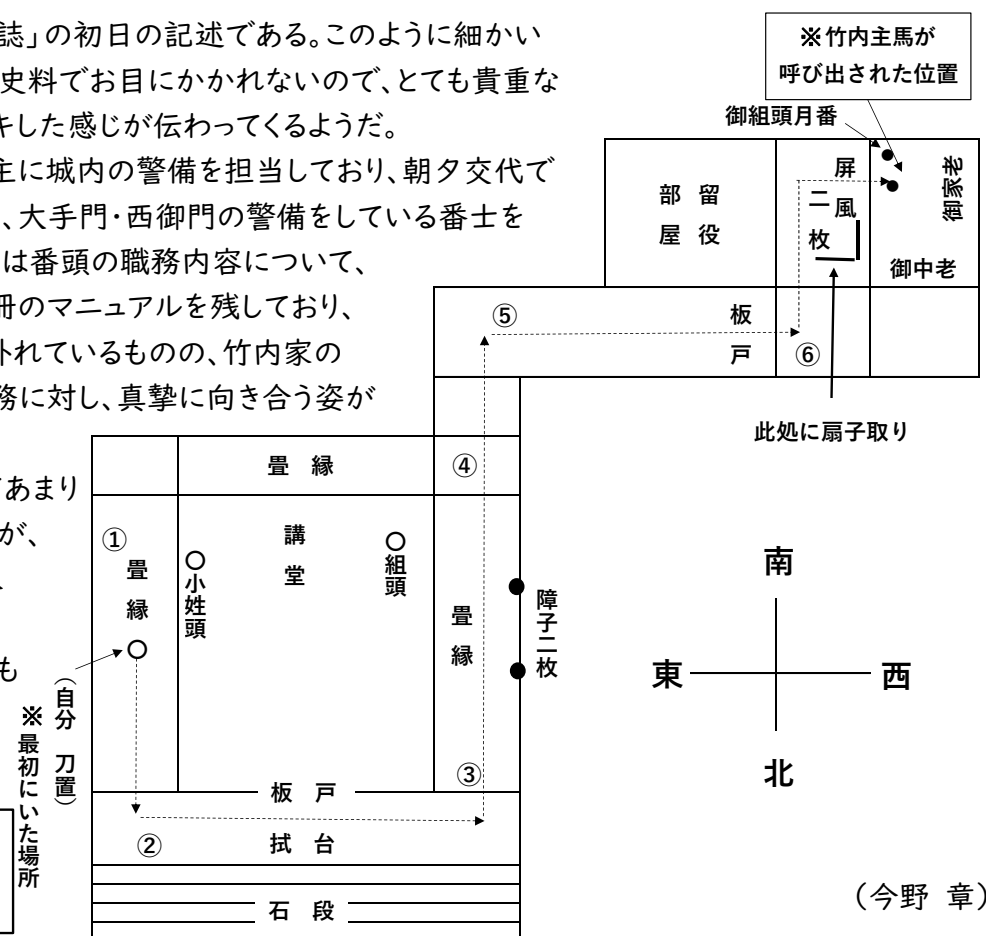
これにより、主馬を先代竹内八郎右衛門の跡式として千百石を相続させ、上座番頭に任じます」と一同の前で披露された。それから、武右衛門殿と共に退室し、西畳縁の方を通り、玄関の前の障子の前に着座する。小姓頭の松平権右衛門殿(松平権十郎の父)の方に行き、このたび上座番頭に任じられたことを報告する。その後、武右衛門殿に「いつまで居ればいいのか?」と尋ねたところ、「勝手次第に帰ってよろしい」と教えられる。帰る際は、西畳縁の北側の障子を開け、式台に出て、玄関から外に出る。帰宅して夕飯後、家老・組頭・小姓頭たちの家を残らず廻り、出仕の挨拶に出掛けた。

以上が、主馬の「公務日誌」の初日の記述である。このように細かい儀礼的なことは、なかなか史料でお目にかかれないので、とても貴重な記述であり、初日にドキドキした感じが伝わってくるようだ。

ちなみに、番頭であるが、主に城内の警備を担当しており、朝夕交代で御広間の御用部屋に詰め、大手門・西御門の警備をしている番士を統括する役職だった。主馬は番頭の職務内容について、「御番頭伝達控」という2冊のマニュアルを残しており、そこには藩政の中心から外れているものの、竹内家の当主として、任じられた業務に対し、真摯に向き合う姿が垣間見える。

従来「公務日誌」についてあまり顧みられることがなかったが、よくよく読んでみると、嘉永年間から慶応元年までの藩士の動きが見えて、とても興味深い。またいつか、本稿で紹介してみたい。

「日誌」に書かれた致道館内の様子



図書館からのお知らせ

特別図書整理期間・ 図書館システム更新のため 休館します

休館期間: 令和7年2月3日(月)～13日(木)

- ・休館期間中の本の返却は、本館入口右側の返却ポストをご利用ください。
- ・相互貸借の(鶴岡市立図書館を通してほかの図書館から借りた)本やCD、DVDは返却ポストへ入れず開館時カウンターへご返却ください。
- ・分館は平常どおり開館しておりますので、ご利用ください。

※システム更新に関連し、2月中は図書館内インターネット用パソコンが使用不可能になります。(本館・分館全て)大変ご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいますようお願いいたします。

